「こおりやまの米」通信

「湖南版」

平成２４年７月24日

編集:郡山市

JA 郡山市（TEL.921-0724）

NOSAI 郡山田村（TEL.933-3307）

県中農林事務所農業振興普及部（TEL.935-1310）

発行:郡山市農作物生産対策協議会 (郡山市営農推進課 TEL.924-3761)

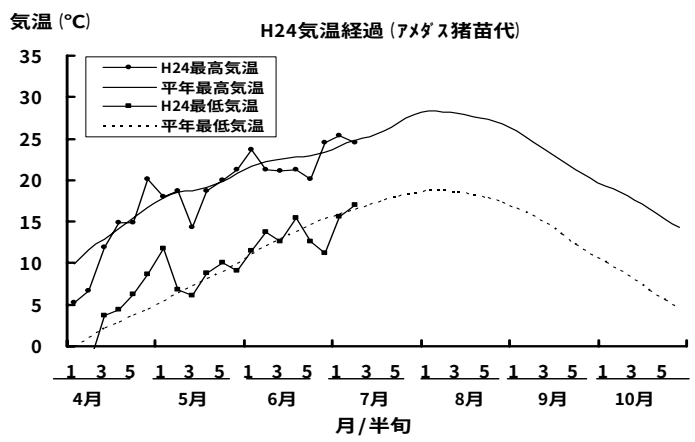
郡山市

イメージキャラクター

「がくとくん」

Vol.７穂肥の量と時期　　次号は９月上旬（刈取適期）

＊最新号は JA 各支店窓口にそなえつけてあります



7月17日 生育調査結果

品種(調査地点)	年次	草丈(cm)	茎数(本) 株あたり	茎数(本) ㎡あたり	葉令
あきたこまち	本年	58.1	26.6	511	8.5
	平年比(%)・差	101	114	104	-0.5
まいひめ	本年	57.9	28.2	563	9.1
	平年比(%)・差	91	169	162	-0.2

注) 湖南地区

１　生育概況　　草丈は「平年並み～やや短く」、茎数は「平年並み～多い」

気温は７月上旬より最高気温は平年より高く、最低気温が平年並となりました。水稲の生育の遅れは、平年並みに回復しつつあります。

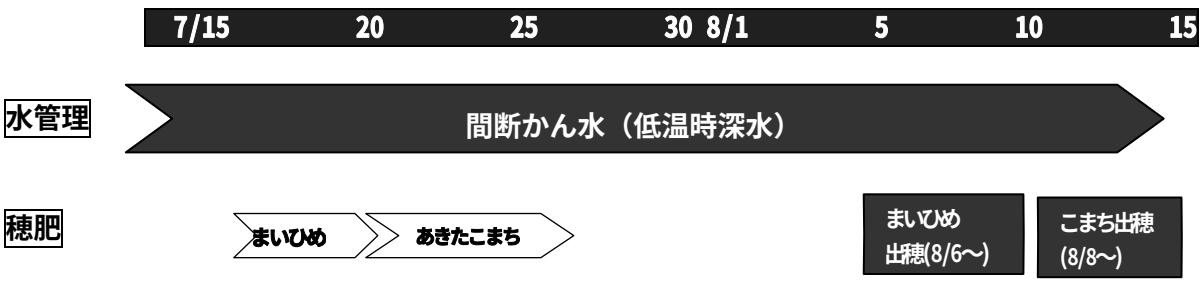
７月１７日時点の湖南町の水稲は、草丈は「平年並み～やや短く」、茎数は「平年並み～多い」となっています。ただ、幼穂の状況から、まいひめの出穂は８／６頃から、あきたこまちの出穂は８／８頃からと見込まれます。

２　天気予報

東北地方　１か月予報（平成２４年７月１３日　仙台管区気象台　発表）

前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多く、後半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。
向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。
週別の気温は、1週目は、高い確率50%です。

３　作業のめやす



４　水管理

（１）中干し後は、間断かん水により根を健全に保ちましょう
（低温の恐れがある場合は深水にしましょう）。

（２）出穂期以降に高温が続く場合は、できるだけ掛け流しとし水田の水温・地温を下げ根の活力を維持しましょう。

水管理期間中の水田水温と水田地温

区名	最高(°C) 水温	最高(°C) 地温	最低(°C) 水温	最低(°C) 地温	平均(°C) 水温	平均(°C) 地温
掛け流し区	25.4	24.9	21.4	21.6	23.1	23.1
常時湛水区	28.4	26.2	23.4	24.1	25.4	25.1
間断潅水区	30.4	29.0	22.3	23.3	25.5	25.8

（2000 年　福島農試）

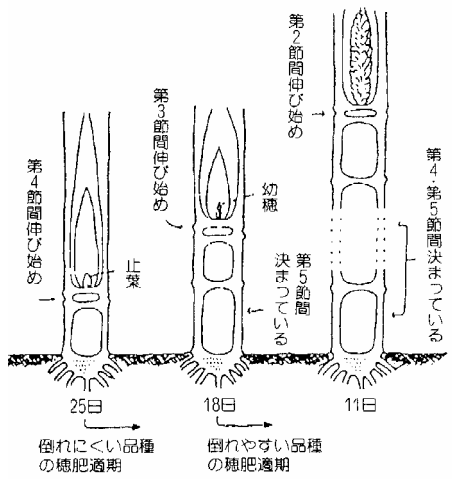
５　穂肥「遅れずに適量の追肥を」

（１）**あきたこまち**は出穂 20 日前に、**チッソ成分２kg/10a が基本**です。**葉色の極端に濃いほ場は，量を減らすか時期を少し遅らせましょう**。

（２）有機質肥料はゆっくり効くので、５～７日早く施用しましょう。

（３）出穂５日前以降の**実肥は**、玄米のタンパク質が高まり、**食味が低下するので行わないでください。**

＊基肥一発の場合は、原則として穂肥は行いません。



追肥のチッソ成分２ｋｇの目安

（あきたこまち、１０ａあたり）

肥料銘柄	N-P-K	施用時期（出穂前）	施用量
ＮＫＣ６号	17- 0-17	20～15 日	１２ｋｇ
ＩＢ４号	15- 4-15	20～15 日	１３ｋｇ
こおりやま２号（有機入り）	10- 2-10	23～18 日	２０ｋｇ

幼穂長による出穂前日数の判定

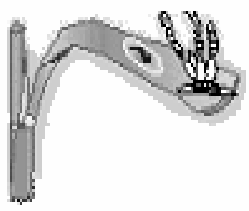
幼穂長	出穂前日数	備考
1.5㎜	２４日	幼穂形成期
2.0㎜	２０日	
40.0㎜	１５日	減数分裂期

＜参考：倒伏懸念がある場合の穂肥対応目安＞

品種名	倒伏懸念がある場合の対応		穂肥量の目安	
	穂肥時期の目安（出穂前日数）	穂肥量の目安（窒素成分）	標準的穂肥適期（出穂前日数）	穂肥量（窒素成分）
あきたこまち	１２～７日前	１ kg／10ａ	２０日前	2kg／10ａ

６　病害虫防除

（１）**いもち病防除**



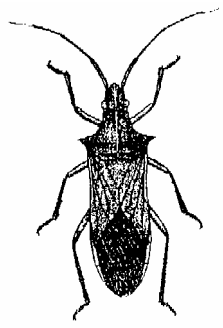
① **コラトップ粒剤５など**で予防する場合は、今すぐに散布しましょう。

② 田植え時に長期持続型殺虫殺菌剤を箱施用した場合でも，効果は徐々に落ちてきます。穂いもちは別に防除を行う必要があります。

（２）**稲こうじ病**は毎年同じ田で連続して発生します。**モンガリット粒剤(出穂 21～14 日前)**や**Ｚボルドー粉剤 DL(出穂 10 日前まで)等**で防除しましょう。

（３）斑点米カメムシ類の注意報がでました（**カメムシの発生はやや多い**と予想されています）。例年発生の多い地域では、乳熟期と糊熟期に殺虫剤で防除しましょう。

※ミツバチなどの有用昆虫に対し長期間影響のある薬剤があるため、養蜂業者との連絡（所有者不明の場合は県中家畜保健衛生所 TEL923-1661）を密にし、事故のないようにしましょう。



ホソハリカメムシ

※ 農薬は決められたとおり使用しましょう。他の農作物への飛散に注意しましょう。

この資料は、平成２４年７月１８日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。